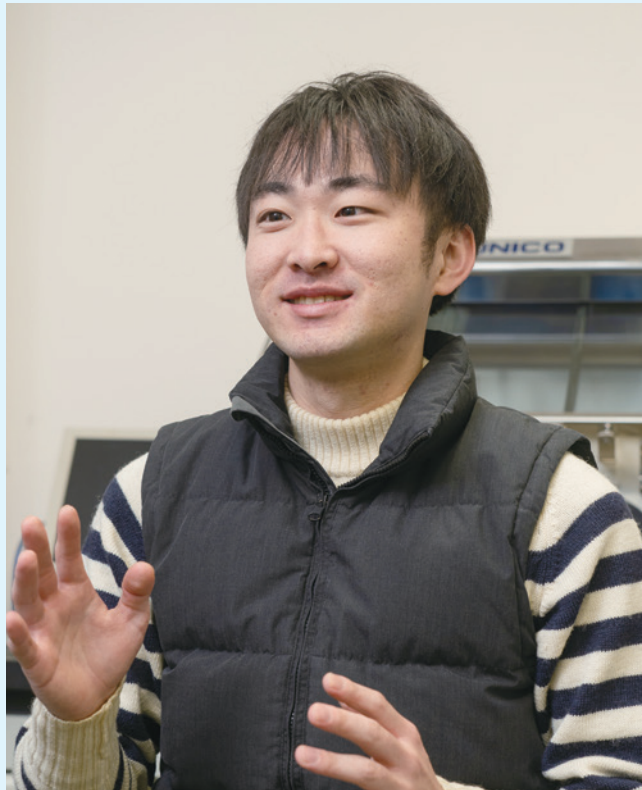


先輩インタビュー



Interview

博士後期課程 松見研究室 浅井 優作 さん

自由な研究環境と ダイバーシティな学風

蓄電デバイスの需要は拡大の一途にあり、その進化を目指す研究は盛んに行われています。私も学部時代からリチウムイオン電池の研究を始め、JAISTの5年間、分野の先進的な研究室に在籍しました。自身の研究テーマは主に2本。一つは、水素エネルギーの製造法に関する研究です。水素の電気化学的分解法では、アノードにおける酸素発生反応（OER）は律速段階であり、効率的な触媒が求められます。後期課程1年のときには、酸化イリジウムの電子構造をポリチオフェン系高分子で制御することにより、先行研究より効率的なOER触媒を見出し、高分子討論会優秀ポスター賞をいただきました。もう一つのテーマは、リチウムイオン電池における、より高性能な添加剤の探索です。

博士号を取るならJAISTへ、と勧めたのは私の父。オープンキャンパス、そして実際に入学して、父が勧めた理由に納得しました。高度な分析装置が揃っていて、ライセンスを取れば学生も操作可能、設備面においてストレスをほとんど感じません。さまざまな分野を背景とする学生や留学生が多く、ダイバーシティといった雰囲気も好ましいものでした。

また、私が選んだ融合科学共同専攻では、仕送りを必要としないくらいの奨学金が得られ、また、本学と金沢大学の授業を受けることで幅広い知識を身に付けられます。さらに、学部生がいない分、就職活動では手厚い支援を受けられました。

総合して言うならば、JAISTは研究に没頭できる良好な環境を惜しみなく与えてくれる、このひと言に尽きると思います。